

## 善意の押しつけ？

秋田県内の中学校で、生徒会が東日本大震災の被災者を支援する義援金を集めたところ、2年生のクラス担任が、期限内に納めなかった生徒の氏名を黒板に掲示したところ保護者からの苦情を受けたため掲示を取りやめるという出来事がありました。

当校の校長は「懲罰という意味ではないが、配慮が足りなかったと思う」と話しているそうですが、学校の中でどうしてこのようなことが起こるのか、不思議だし、残念に思います。

秋田県の教育委員会は「配慮に欠けており、好ましくない」と指摘しておられますが、私も同感です。

生徒会の皆さんが、東日本大震災の被災者に対して自主的に義援金を集め支援しようと考えたことは評価できますが、こうした生徒達の取り組みに教師はどう対応すべきなのでしょう。通常、生徒会が自主的に決めたことは生徒会が責任をもって実行し、教師は、時にははらはらしながらも生徒の活動を見守るということだろうと思います。勿論、生徒会が自主的に決めたことであっても、内容によっては、慎重に対応するよう助言しなければならない場合もあるでしょうし、逆に生徒会の自主性を損なわない形で応援する場合もあるでしょう。

今回の担任の先生の行動は、生徒会の活動を応援しようという意図があつたことだろうと察してはいますが、しかし、応援しようという中身も方法も違っていたのではないかと思います。

義援金は、給食費とは違いますから、本来強制ではありません。従って、義援金の目標額に達するように、義援金を出していない生徒の名前を黒板に書き出してプレッシャーを掛けるというやり方は、義援金を集めるという趣旨からしてもおかしいことだとは思わなかったのでしょうか。それは、鼻屑のひき倒しに他なりません。

先生がまずなすべきは、東日本大震災によって極めて大きな被害を受けたこと、そうした中でも、被災地や被災者は立ち上がろうと努力していること、今回の災害に際し、世界中から多くの支援があり、日本という国も国際社会の一員として孤立しては生きられないこと、日本は必ず復興するし、その為にも、国民は一人ひとりができる努力をしていく必要があること、などについて、生徒達の理解が深まるよう指導すべきです。

その上で、生徒達には、今回の大震災の被災者支援のために、自分は何をなすべきか、何ができるのかをよくよく考えさせる必要があります。そうでなければ、折角募金しても誰かにいわれたから仕方なしにしたことになってしまい、教育上の意義も効果も半減してしまいます。(塾頭 吉田 洋一)